

ワシントンで働く女性の会(J-WIP)第8回会議報告

ワシントン日本商工会企画担当理事
安井真紀

去る3月7日、ワシントンDCで働く女性の会(Japanese Women in the Professions in Washington D.C. (J-WIP))の第8回会議をワシントン市内で開催しました。

今回は「前代未聞のトランプ政権:テレビはどう伝えたか?」と題して、昨年の大統領選挙キャンペーンの取材からトランプ大統領の誕生・就任式・日米首脳会談まで、日本のテレビ局がどのように活動し、報道してきたかを、NHKの田中正良ワシントン支局長、フジテレビの松山俊行ワシントン支局長、日本テレビの田口舞ワシントン支局記者(モデレーター)に語って頂きました。

日本のメディアとしてトランプ候補(当時)に何度も果敢に取材を挑みついに顔まで覚えられたエピソード、画面に映らないクルーも含めたオペレーションやテレビ中継の舞台裏、刻々と変化する情報の中からニュースを選別する基準、日米のメディアが評価するポイントの違いなど、興味深いお話を伺いました。また参加者からも、大統領選における討論会の位置付けや政権とメディアの距離感など、多くの質問が寄せられました。

今回は商工会会員を含む男性・女性40名強の方々に参加頂きました。



【参加申込先・お問い合わせ先】

J-WIPでは引き続きメンバーを募集しております。ご関心のある方、以下連絡先までメールでご連絡ください。お待ちしております。

企画担当理事: 安井 (m-yasui@jbic.go.jp / mkysi.makimaki@gmail.com)

商工会会員: 酒向 (yuki.sako@klgates.com)